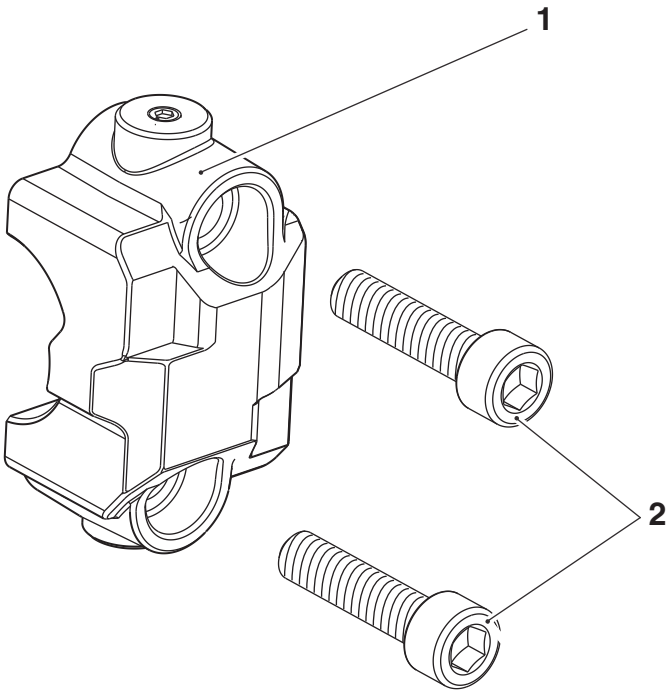
日本語

取付方法説明書：
Tiger Explorer および Tiger Explorer XC
A9638086、A9638048、A9638121

この度は本 Triumph 純正アクセサリーキットをお選びいただき、誠にありがとうございます。本アクセサリーキットは、Triumph 社の定評あるエンジニアリングと徹底的なテスト、そして、優れた信頼性、安全性、高性能を追求するたゆまぬ努力から生まれた製品です。

アクセサリーキットの取り付けを始める前に本書を熟読し、本キットの機能とその取り付け手順を十分にご理解ください。

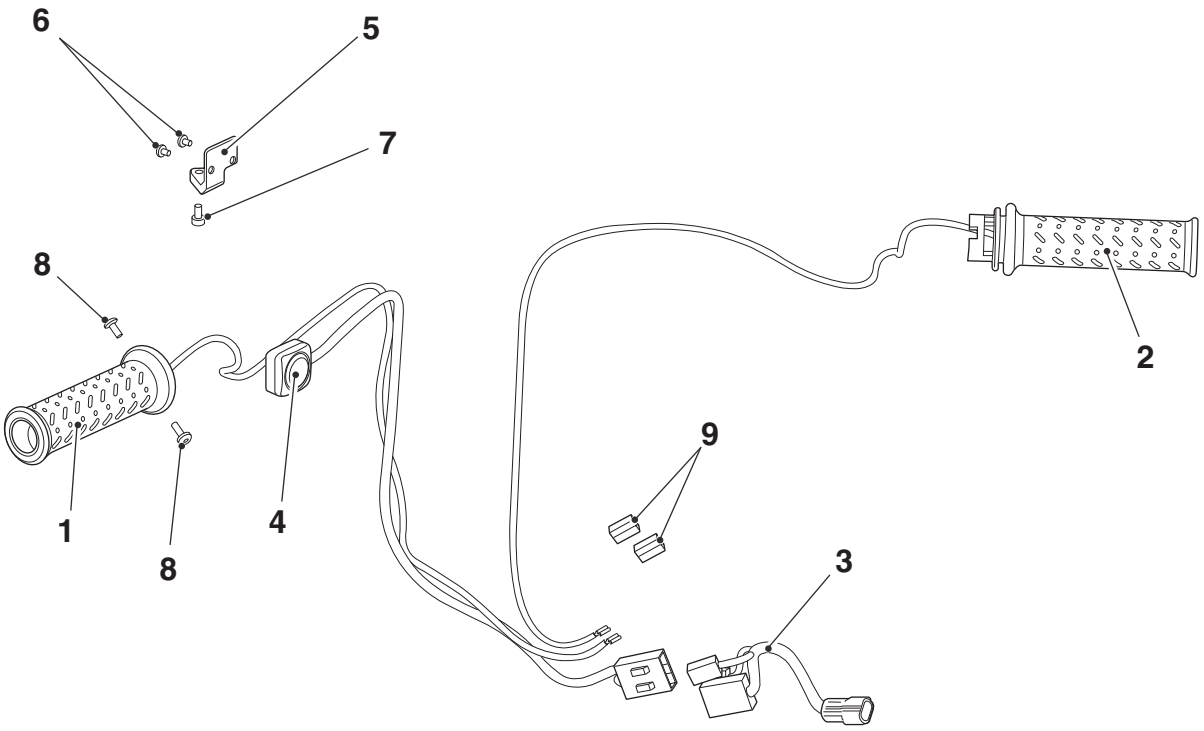
本書は常にお買い上げのアクセサリーキットの一部としてみなされるものであり、後にこのアクセサリーを装備したモーターサイクルを売却する場合にも、アクセサリーキットと一緒に引き渡さなければなりません。



供給パーツ A9638086：

1. クラッチマスターシリンダークランプ	1 個	2. M6 x 25 mm ネジ	2 個

出版部品番号 A9900488 第 4 号、ADC 12976
© Triumph Designs Ltd. 2013



A9638048 および A9638121 の供給パーツ：

1. 左側ヒートグリップ	1 個	6. M4 x 5 mm ネジ	2 個
2. 右側ヒートグリップ	1 個	7. M4 x 8 mm ネジ	1 個
3. ヒートグリップ用サブハーネス	1 個	8. M4 x 10 mm ネジ	2 個
4. ヒートグリップ用スイッチ	1 個	9. コネクターブロック	2 個
5. スイッチ用ブラケット	1 個		

警告

このアクセサリーキットはTriumph製のTiger ExplorerおよびTiger Explorer XCで使用するキットであるため、Triumphの別モデルや他社製のモーターサイクルには取り付けないでください。このアクセサリーキットをTriumphの別モデルや他社製のモーターサイクルに取り付けると、モーターサイクルの性能、安定性、操縦性に影響を及ぼします。それによって、ライダーがモーターサイクルを思うように制御できなくなり、事故を招く恐れがあります。

警告

Triumph認定パーツ、アクセサリー、改造品などの取り付けは、正規Triumphディーラーの熟練技術者にお任せください。正規Triumphディーラーと関係のない技術者によってパーツ、アクセサリー、改造品などの取り付けが行われると操縦性や安定性などに影響する場合があり、モーターサイクルが制御不能となって事故を招く恐れがあります。

警告

新たに取り付けた配線が摩擦で傷ついたり、電気系統のトラブルが生じたりしないように、新しい配線がモーターサイクルの他のパーツと擦れ合っていないことを必ず確認してください。加えて、新たに取り付けた配線によってステアリングの動きが阻害されていないか必ず確認してください。これらの問題が発生していると危険な走行状態に陥る恐れがあり、出火したりモーターサイクルのバランスを崩したりして事故につながります。

警告

この作業を行なっている間は、モーターサイクルの転倒による負傷を防ぐために、モーターサイクルをしっかりと固定し、適切に支えるようにしてください。

警告

このアクセサリーキットを取り付ける時は、精密に校正されたトルクレンチを使用してください。規定トルクで締め具類を締め付けないと、モーターサイクルの性能、操縦性、安定性に影響する場合があります。そうなると、モーターサイクルが制御不能となって事故を招く恐れがあります。

ヒートグリップの取り付け

1. 取扱説明書を参照して、ライダーシートを取り外します。
2. 最初にマイナス（黒）のリード線からバッテリーの接続を外します。
3. サービスマニュアルに記載されている要領で、以下の部品を取り外します。
   - 燃料タンク
   - ハンドルエンドウエイト
   - 左側スイッチキューブ
   - 左側ハンドルバーグリップ
4. 右側スイッチキューブのネジを取り外し、スイッチキューブの後部をハンドルから離します。

注：

- **スイッチキューブのネジに手が届くようにするには、フロントブレーキマスターシリンダークランプのネジをゆるめて、そのアッセンブリーを邪魔にならない場所に回転させる必要があるかもしれません。**

警告

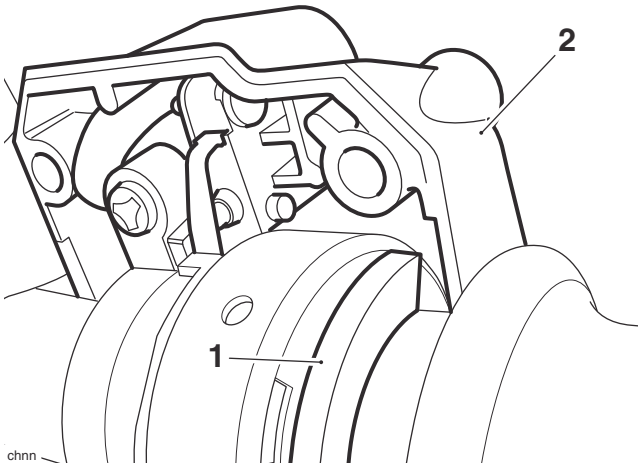
マスターシリンダーは逆さにしないでください。逆さにすると、ブレーキシステムに空気が入ります。また、ブレーキフルードが漏れて車体を損傷する可能性があります。

この警告を無視した場合、モーターサイクルが制御不能になって事故につながるような、危険な走行状態に陥る可能性があります。

注：

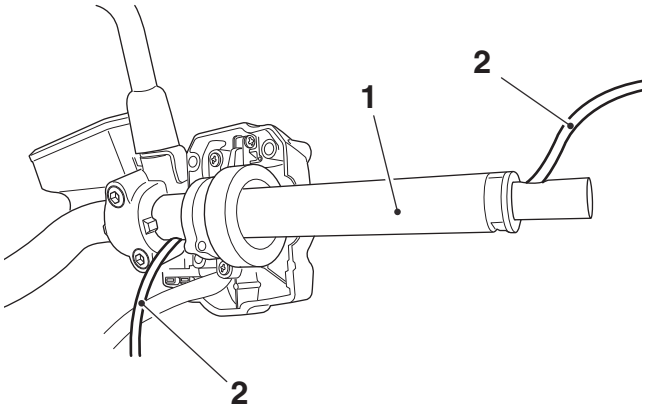
- **取り付け時に備えて、スイッチキューブに対するツイストグリップの位置と向きを確認しておいてください。**

5. ツイストグリップのガイドがスイッチキューブから離れるまで、ツイストグリップをやや後方に回します。ツイストグリップをハンドルから外します。モーターサイクルを元の状態に戻す予定があれば、ツイストグリップを保管しておきます。



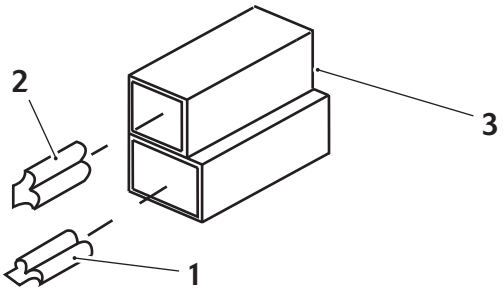
1. ツイストグリップガイド
2. スイッチキューブ

6. 下図のように、右側（スロットル側）のヒートグリップのケーブルをハンドルエンドウエイト取り付け部にある大きめの穴から挿入し、ハンドル下側の穴から引き出します。



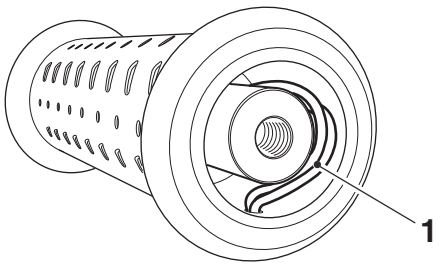
1. ハンドル
2. ヒートグリップケーブル

7. キットからターミナルブロックを取り出して、各端子をコネクターブロックに挿入し、タブをしっかりはめ込みます。



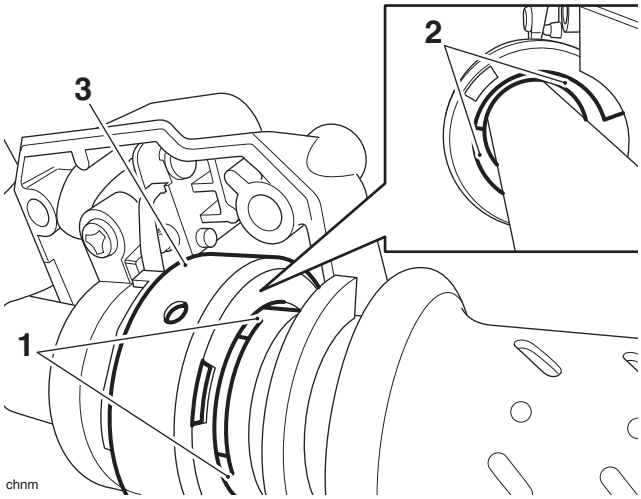
1. 茶色端子
2. 青色端子
3. コネクターブロック

8. 右側ヒートグリップをハンドルに慎重に取り付けます。下図のように、ケーブルに引っ掛かりがなく、スロットルを反時計方向にいっぱいまで回せるだけの適度なたるみがあることを確認します。



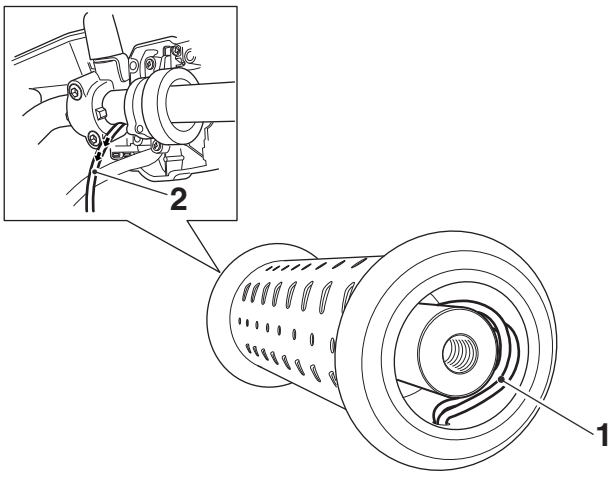
1. ケーブルの位置（スロットルオフ状態）

9. ヒートグリップの取り付け部をスプリングハウジングの溝に仮付けします。



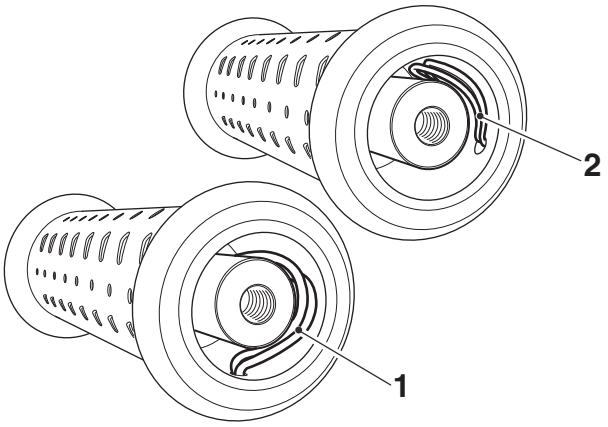
1. 取り付け部
2. 溝
3. スプリングハウジング

10. ヒートグリップを後方に回し、そっと押し込んで取り付け部をしっかりはめ込みます。
11. ケーブルのループ部分が下図のように右側ヒートグリップ先端の内側に収まるように、ハンドル下側にある穴からケーブルを慎重に引っ張ります。



1. ケーブルの位置（スロットルオフ状態）
2. ケーブル

12. 右側ヒートグリップを回転できるように適度なたるみがケーブルにあることと、ケーブルに引っ掛かりがないことを確認します。



1. ケーブルの位置（スロットルオフ状態）
2. ケーブルの位置（スロットルオン状態）

13. 右側ヒートグリップをスムーズにいっぱいまで回すことができることと、回転が妨げられていないことを十分確認します。スムーズに回転しなかったり回転中に引っ掛かりを感じた場合には、モーターサイクルに乗る前に原因を調べて修正します。
14. スイッチキューブの後部を取り付け、その固定具を 2.5 Nm で締め付けます。
15. スロットルを完全に閉じた状態で、ツイストグリップ内側のケーブルに適度なたるみを持たせ、スロットル操作の妨げにならないようにします。

警告

右側ヒートグリップ（ツイストグリップ）が正しく動作するか確認してください。ヒートグリップを前後にスムーズに操作することができ、回しづらさがなく、手を離すとスロットルオフ位置に戻ることを確認してください。

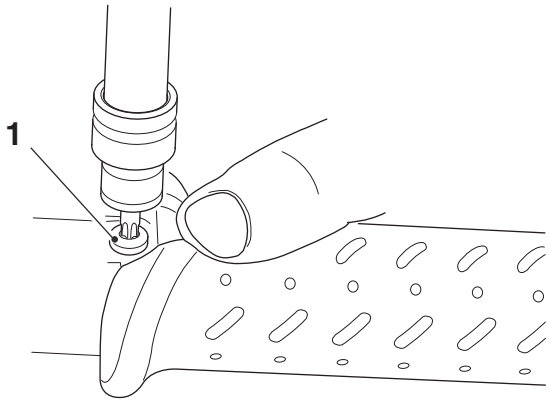
ツイストグリップが回しづらかったり回せなかったりすると、モーターサイクルが制御不能となって事故を招く恐れがあります。

16. 右側スイッチキューブの配線に沿って、右側ヒートグリップのケーブルをヘッドストックの右側まで配線します。
17. スイッチキューブハーネスに付いているラバーストラップでケーブルを固定して、ステアリング機構にケーブルが引っ掛かったり引っ張られたりすることがないようにします。

警告

ハーネスの引っ掛かりがないことを確認しながら、ハンドルを左右にフルロックの位置まで切ってください。ハーネスが引っ掛かっているとステアリングの妨げとなり、制御不能に陥って事故に至る危険があります。

18. 右側のハンドルエンドウエイトを再び取り付けます。ハンドルエンドウエイトの固定具を **5 Nm** で締め付けます。
19. 左側ヒートグリップも右側と同様の手順で取り付けます。左側の場合も、ケーブルの位置が正しいことと、ケーブルが引っ掛かっていないことを確認します。下図のように、セルフタッピンネジ 2 個を取り付けて **3 Nm** で締め付け、左側ヒートグリップを固定します。

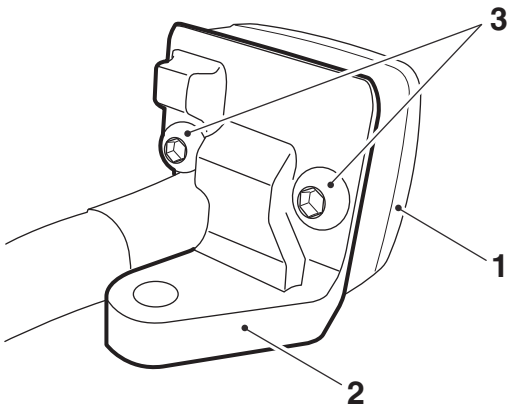


1. セルフタッピンネジ（図は 2 個中の 1 個）

20. 左側のスイッチキューブを再び取り付けます。固定具を **2.5 Nm** で締め付けます。
21. 左側のハンドルエンドウエイトを再び取り付けます。ハンドルエンドウエイトの固定具を **5 Nm** で締め付けます。
22. 元々取り付けられているラバーストラップを使用して、左側ヒートグリップのケーブルを左側スイッチキューブのケーブルに固定します。
23. ブレーキレバーのスプリットラインをハンドルの上面に付いている「+」マークに合わせ、クランプのネジを上側、下側の順に **12 Nm** で締め付けます。

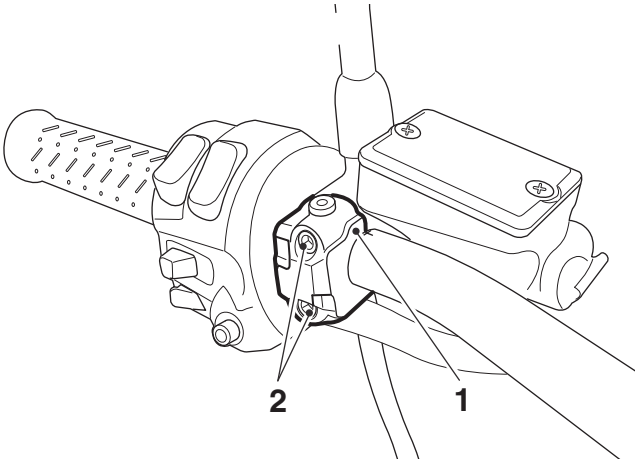
スイッチの取り付け

1. スイッチをブラケットに合わせ、キットに付属の M4 x 5 mm ネジ 2 個で固定し、**3 Nm** で締め付けます。



1. スイッチ
2. スイッチブラケット
3. M4 x 5 mm ネジ

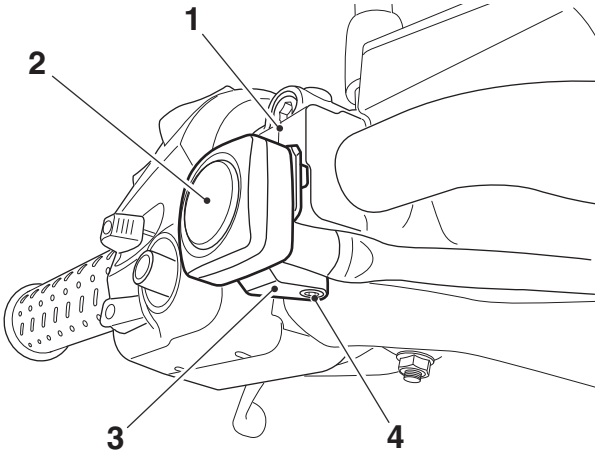
2. クラッチマスターシリンダーアッセンブリーを手で支えて、クランプを取り外します。モーターサイクルを元の状態に戻す予定があれば、クランプとネジ 2 個を保管しておきます。
3. キットに付属のクラッチマスターシリンダークランプを、クランプ側面の突起部がスイッチキューブの側に位置するようにして取り付けます。キットに付属の M6 x 25 mm ネジで固定します。



1. クラッチマスターシリンダークランプ
2. M6 x 25 mm ネジ

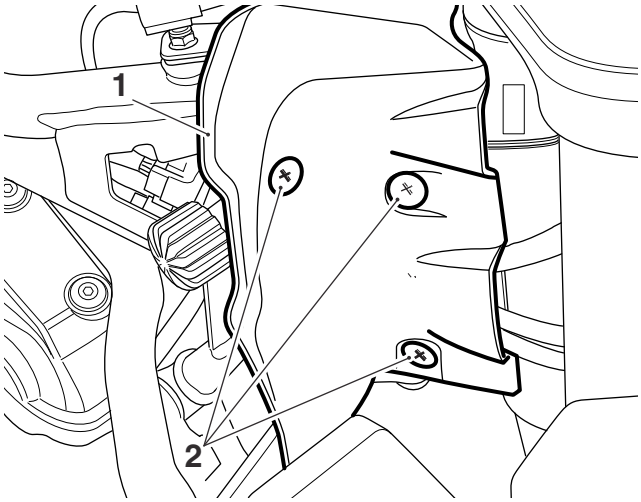
4. クラッチレバーのスプリットラインをハンドルの上面に付いている「+」マークに合わせ、クランプのネジを上側、下側の順に **12 Nm** で締め付けます。

5. スイッチブラケットをクランプに取り付け、キットに付属の M4 x 8 mm ネジで固定し、**3 Nm** で締め付けます。



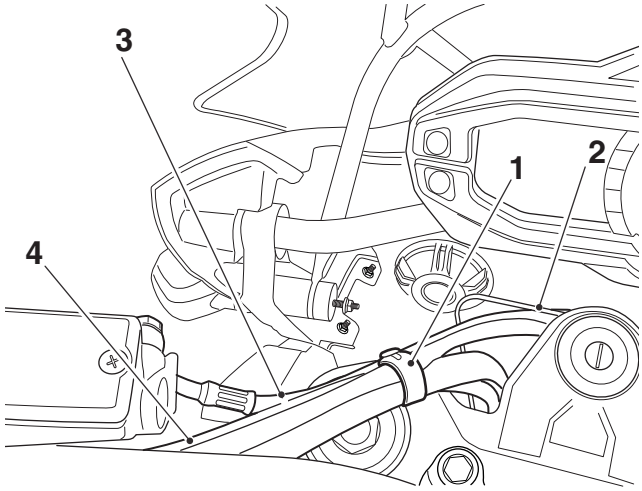
1. **クラッチマスターシリンダークランプ**
2. **ヒートグリップスイッチ**
3. **スイッチブラケット**
4. **M4 x 8 mm ネジ**

6. ヘッドストックインフィルパネルの両側からスクリベットを取り外し、ヘッドストックインフィルパネルをフレームから取り外します。



1. **インフィルパネル（右側を図示）**
2. **スクリベット**

7. スイッチキューブのハーネスに沿ってヒートグリップスイッチのハーネスを配線します。下図のように、ラバーストラップでハーネスを固定します。



1. **ラバーストラップ**
2. **ワイヤーガイド**
3. **クラッチホース**
4. **スイッチハーネス**

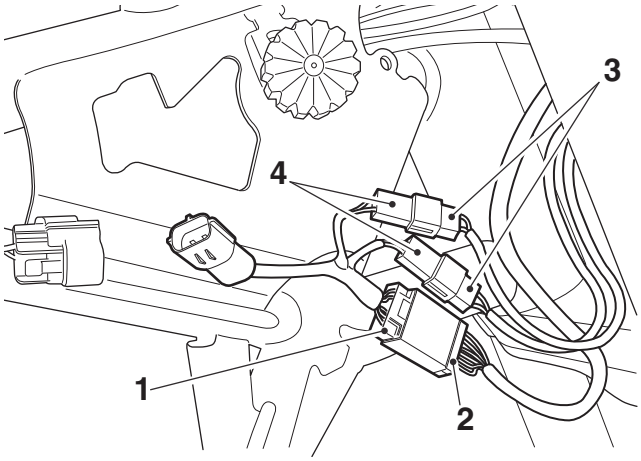
8. ヒートグリップスイッチのハーネスと左側ヒートグリップのケーブルをクラッチホースに沿って、ヘッドストックの右側まで配線します。

警告

ケーブルとハーネスの引っ掛かりがないことを確認しながら、ハンドルを左右にフルロックの位置まで切ります。ケーブルやハーネスが引っ掛かっているとステアリングの妨げとなり、制御不能に陥って事故に至る危険があります。

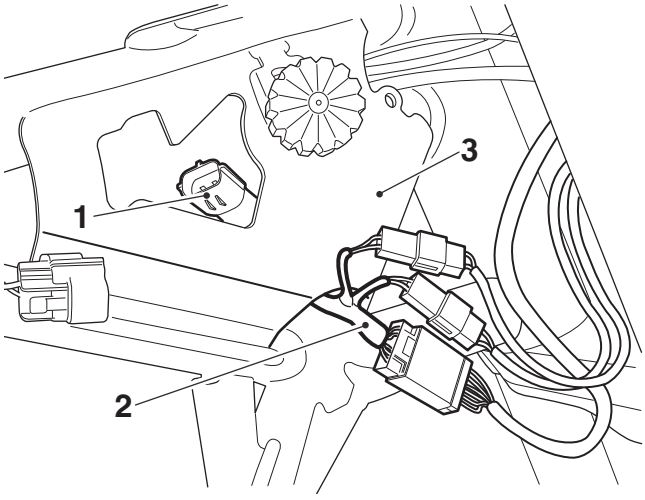
サブハーネスの取り付け

1. キットに付属のサブハーネスを取り出します。
2. スイッチハーネスをサブハーネスの適切なコネクターに接続します。
3. ヒートグリップの各ケーブルをサブハーネスのコネクター 2 個に接続します。



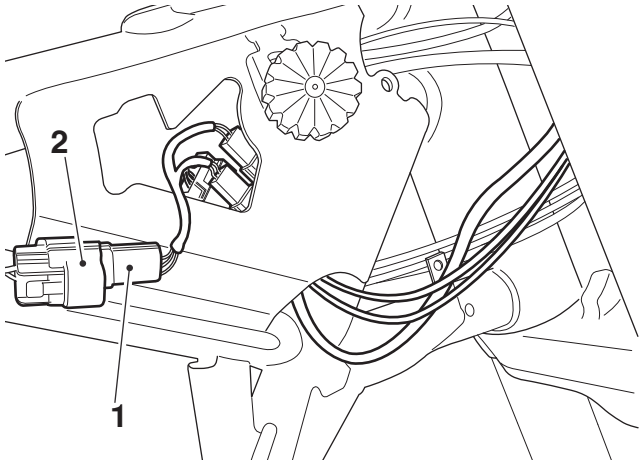
1. サブハーネススイッチコネクター
2. スイッチハーネスコネクター
3. ヒートグリップコネクター
4. サブハーネスヒートグリップコネクター

4. サブハーネスのメインコネクターをフレームブレースの穴に通し、ヘッドストックの後側へ配線します。



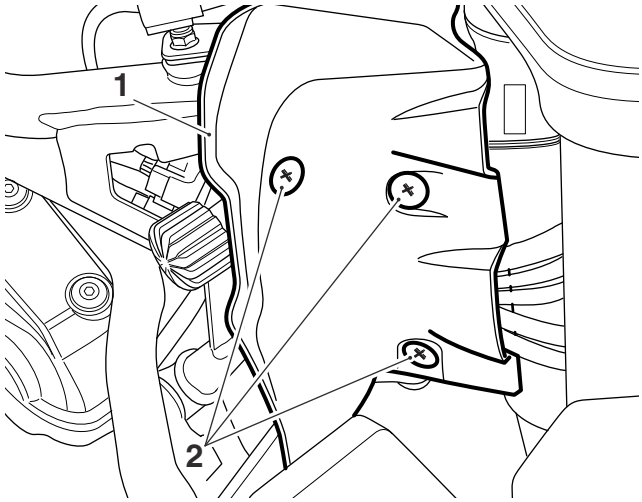
1. サブハーネスコネクター
2. サブハーネス
3. フレームブレース

5. メインワイヤリングハーネスのメインワイヤリングハーネスコネクターを見つけて（ヘッドストック部にあります）、ブランキングプラグを取り外します。モーターサイクルを元の状態に戻す予定があれば、ブランキングプラグを保管しておきます。
6. ヒートグリップのサブハーネスをメインハーネスに接続します。



1. サブハーネス
2. メインハーネス

7. 固定されていないすべてのケーブルとサブハーネスをフレームの右側に持ってきます。
8. インフィルパネルをフレームに取り付け、スクリベットで固定します。



1. インフィルパネル（右側を図示）
2. スクリベット

9. サービスマニュアルに記載されている要領で、燃料タンクを再び取り付けます。
10. プラス（赤）のリード線から先に、バッテリーに再接続します。
11. ライダーシートを再度取り付けます。取扱説明書を参照してください。

ヒートグリップシステムのテスト

注：

- **ヒートグリップ取り付け後、初めてエンジンを始動させると、エンジンコントロールモジュールによってヒートグリップ回路のセルフチェックが行われます。このセルフチェックの間、スイッチが赤く点灯してから黄色に変わり、その後オフ位置に戻ります。**

1. バッテリーの消耗を避けるために、エンジンを始動します。
2. スイッチを操作して、どちらの温度設定でもヒートグリップが暖かくなることを確認します。
3. ヒートグリップ回路は、右側ヒューズボックスのヒューズ No.4 で保護されています。ヒューズのアンペア数は、ヒューズボックスのふたのラベルを参照してください。

操作方法

1. ヒートグリップスイッチを操作するときは、以下の 3 箇所から選択します。それぞれ色が異なります。
   - オフ – 白（消灯）
   - 高温 – 赤（点灯）
   - 適温 – 黄（点灯）

このシステムでは、グリップ温度を適温と高温から選択できるようになっています。

ヒートグリップスイッチを 1 度押すと、ヒートグリップが高温設定で作動します。スイッチは赤く点灯します。

もう一度スイッチを押すと、適温設定になります。スイッチは黄色の点灯になります。

さらにもう一度スイッチを押すとヒートグリップの電源がオフします。スイッチが消灯し、白色になります。

自動オフ機能

ヒートグリップをオンにしているときに、バッテリー電圧が低下した状態が連続して 5 分以上検出されると、その時点灯しているヒートグリップのスイッチが 5 回点滅します。スイッチの点滅が終わると、ヒートグリップへの電源供給が停止し、LED 警告灯が消灯します。

ヒートグリップをもう一度オンにするときは、スイッチを押して希望する温度設定を選びます。ただし、バッテリーの電圧が低いままだと、ヒートグリップをオンしてから 5 分後にまた電源がオフになります。

警告

このアクセサリーキットを取り付けた後、モーターサイクルの性能に何らかの影響が現れた場合は、正規 Triumph ディーラーに連絡し、ディーラーによって問題がないことが確認されるまで、そのモーターサイクルに乗らないでください。性能面に少しでも不安のある状態でモーターサイクルを運転すると、制御不能となって事故を招く恐れがあります。

警告

アクセサリーを装備したモーターサイクルで走行するときは、絶対に 130 km/h を超えてはいけません。

アクセサリーを装備すると、モーターサイクルの安定性と操縦性に変化が生じます。モーターサイクルの安定性に変化が生じることを考慮に入れずに運転すると、モーターサイクルが制御不能となって事故を招く恐れがあります。

認可されていないアクセサリーを取り付けたり、積載状態が不適切であったり、タイヤが摩耗していたりする場合、またはモーターサイクル全体の状態や悪路、悪天候などによっては、130 km/h に達しなくても安定性や操縦性に影響があることを忘れないでください。

警告

サーキット以外の場所では、法定制限速度を超えるスピードでモーターサイクルを運転してはなりません。

警告

本Triumphモーターサイクルで高速走行できるのは、定められたコースで行われるロードレースやサーキットのみです。また、高速走行が可能なのは、高速走行に必要とされるテクニックを修得し、本モーターサイクルのあらゆる状況における特性を熟知しているライダーだけです。

それ以外の場合の高速走行は危険であり、モーターサイクルが制御不能となって事故を招く恐れがあります。